

科 目	生活行動援助技術 I				
時間数	1 単位 30 時間	授業方法	講義	授業時期	1 年
講師名	③伊藤純子 ③渡邊知美 ③原和樹				
実務経験	③看護師(医療機関) ③理学療法士(医療機関)				
ねらい	<p>看護は実践の科学であり、対象に応じた援助として具体的な実践によって看護となる。 看護技術は、看護を実践するための専門的な能力であること、知識・技術・態度の統合として学ぶことの重要性が理解できる。 看護技術の基本原則を理解し、あらゆる対象に応用できる基礎的能力を養う。 特に本講では、技術の修得方法について(サブノート作成過程)導入学習として指導し、今後主体的に自己学習ができる方法と態度を養うことを目的とする。</p>				
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の療養環境について理解し、安全で安楽な環境維持のための調整・整備ができる。 2. 病院という環境を知り、快適な療養環境について考えることができる。 3. 人間の活動及び睡眠・休息の意義とそのメカニズムを理解し、対象が自分に適した生活リズムを形成し、快適な入院生活を送るための生活援助方法を学ぶ。 4. 看護の基本技術としてのボディメカニクスの原理を理解する。 5. 安全な体位と体位変換の意義を理解するとともにボディメカニクスの原理を用いて適切なポジショニング、移動の援助ができる。 6. 臥床患者のシーツ交換を安全安楽に実施できる。 7. 栄養と食事、食生活の意義を理解し、対象の状態を考慮した食事介助ができる。 				
授業計画					
回	内 容				
1～2	環境調整技術 病室環境のアセスメントと調整				
3	基本的活動の援助 体位変換について				
4	臥床患者のシーツ交換				
5～6	活動の援助				
7～8	臥床患者のシーツ交換実施				
9～10	食事の援助				
11～14	車いす移乗 実技テスト				
15	終講テスト				
評価方法	<p>その時間数の 3 分の 2 以上の出席者に限り受験資格を与える。 筆記試験 60%、実技テスト 30%、提出物 10%を総合して評価する。 60 点以上を及第点とする。</p>				

教科書	基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ:医学書院 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ:医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 第2版:医学書院
-----	---